

理学療法室の紹介



一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター



目次

- 当院理学療法士の業務
- 教育体制
- 職員の声
- 室長から

当院理学療法士の業務

● 急性期・一般病棟

入院初日から医師の指示のもと評価・運動療法を開始しています。十分なリスク管理のもと早期離床・早期歩行練習による身体機能向上・ADL拡大に取り組んでいます。

一般病棟では心臓リハビリも行い、医師等と連携してリスク管理をしながら運動療法や生活指導を行い、ADL向上・社会復帰支援・再発予防に取り組んでいます。





● 回復期病棟

身体機能向上を目的とした練習に加え、病棟内の実際に生活している場所で動作練習を行い、入院中だけでなく今後の生活を見据えた理学療法を展開しています。また多職種と協働して、早期のADL向上と自宅復帰を目指します。

● 訪問・外来リハビリテーション

対象となる方が住んでいる地域で自立した生活を送ることや、自分らしく生きがいを持って生活できることを目的としています。必要に応じて自宅での生活状況の確認や動作・介護指導を含め、生活を支える視点でアプローチしています。

- 医療を支えるチームの一員として

当院では医療安全面において理学療法士が転倒・転落防止対策の立案やその点検等に携わり、理学療法の知識と技術を活用しています。

その他にも褥瘡対策委員会や排泄支援チームなど、理学療法士が活躍できる場は多方面にわたっています。

当院では、脳神経系理学療法において以下の3点に重点を置いています。

①装具療法

積極的な長下肢装具の利用と装具を使用した運動療法により、患者様の運動学習を効率的・効果的に行えるようにしています。



②電気刺激療法

ESPURGE、NM-F1、L300Goなど多様な機器を利用し、身体機能の改善を図るだけでなく運動療法の効果を促進できるようにしています。



③早期立位・歩行練習

早期からの立位・歩行練習により、患者様のADL向上を支援します。安全・安心に練習が行えるよう、免荷式歩行リフトPOPOや部分免荷トレーニング機器も活用しています。



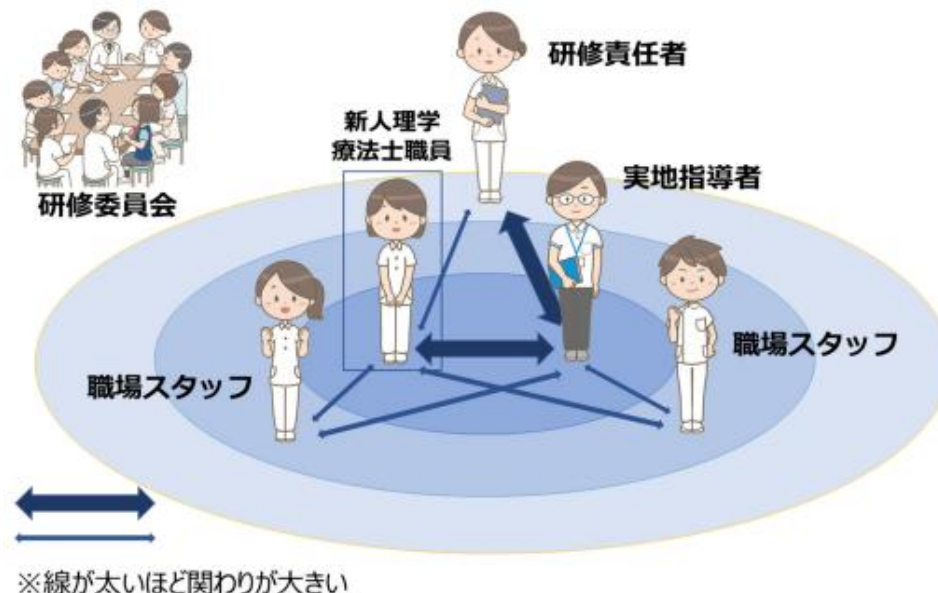
理学療法室の教育体制

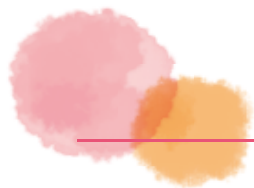
新人指導

基本的な理学療法の実践や、専門職としてふさわしい知識・技術・態度・管理能力が習得できるよう支援しています。

指導者が新人の能力に合わせ段階的に経験を積むことができるように計画しています。

臨床場面に即した職員評価を定期的に行い、短期・長期ゴールを立案して目標達成に向けた方針を共有します。

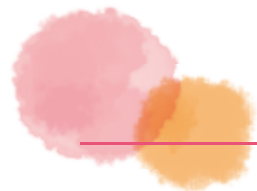




研修会

症例検討会や役職者によるラウンドを開催し、理学療法評価や治療方法について意見交換する機会をつくっています。

積極的に意見交換を行い、より良い理学療法を提供できるために有意義な場となっています。また優秀な報告については、外部での演題発表にもつなげています。



個人のスキルアップも積極的に支援しています。

当院理学療法士の保有資格(令和8年5月現在)

日本理学療法士協会 認定理学療法士(脳卒中・循環)

日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士
3学会合同呼吸療法認定士

日本臨床栄養代謝学会 NST専門療法士

回復期リハビリテーション病棟協会 回復期セラピストマネジャー
介護支援専門員(ケアマネジャー)

東京商工会議所 福祉住環境コーディネーター(2級)

職員の声①

➤ 理学療法士 1年目

理学療法士として勤務し始め、臨床の雰囲気や業務にも少しずつ慣れ患者様と深く関わる機会が増えてきました。この時期には、わからない部分や不安な部分も多くあるのでは？と疑問に思う人もいないではないでしょうか。実際、私も不安に思うこともありましたが、先輩たちの指導のお陰でどうにかやれています。

当院では新人研修や勉強会が充実しており、新たな学びを得ることができ、段階的にステップアップして行くことができる環境だと実感しています。とは言いつつも、1年目なのでまだまだ未熟者です。これからも自己研鑽に励み、質の高いリハビリテーションを提供できるよう努めていきます。

皆さんも私たちと一緒に働きませんか？

職員の声②

➤ 理学療法士 5年目

私は回復期病棟で勤務しており、今年で5年目になりました。悩みながらではありますが、新鮮で充実した日々を過ごしています。一人一人の患者様に適した訓練内容や、退院後の生活を見据えてリハビリテーションを行うことを常に心掛けています。患者様自身ができることが増え、回復していく姿をみることに大変やりがいを感じます。

まだまだ悩んだり迷ったりすることは多いですが、自己研鑽を忘れず時には周りの先輩方を頼りながら、患者様にとって最善のリハビリテーションを提供できるようにこれからも努力していきたいと思います。

職員の声③

➤ 理学療法士 15年目

私は現在、回復期リハビリテーション病棟で勤務しています。昨年度までは当財団系列の介護老人保健施設で勤務し、生活期リハビリテーションを経験しました。実際の生活場面に関わる中で、退院後の暮らしを見据えた支援の大切さを学ぶことができました。

また、育児休業を取得し、現在は二児の父として子育てと仕事の両立に取り組んでいます。仕事と家庭のバランスを取りながら働けることは、とてもありがたいと感じています。

今後も患者様やご家族に寄り添い一人ひとりに合ったリハビリテーションを提供できるよう努めていきたいと思っています。



理学療法室長から

私たちは今年度の部門目標を「対象者の生活改善に必要な機能・能力を明らかにし、その理学療法プログラムについて報告・議論・共有する」と設定し、患者様にとって最良の理学療法を提供できるように努めています。

当院は青森県で最も多くの理学療法士が在籍しています。それぞれの職員に様々なライフイベントがありますが、みんなで支え合い・助け合いながら業務をしています。

中枢神経系や内部疾患系理学療法に興味のある方はもちろん、熱意や向上心のある方は、ぜひ一緒に働きましょう！

理学療法室長 山本 賢雅